

創刊101周年

トランプ旋風に経済学はどう対峙するか
100円マグロ寿司は持続可能?

週刊エコノミスト

2024
12/3
毎日新聞出版
定価850円

共感 利他

経済学

の 現在地 期待

社会包摂

収奪的革新ではなく
社会包摂が成長の近道
河野 龍太郎



今こそ
アダム・スミスに学ぼう
坂本 達哉

「異次元緩和の社会実験は
主流派経済学の実害」
吉川 洋

「マーケットデザインは
社会課題を解決する」
小島 武仁

マグロ資源の危機

大正12年3月30日第3種郵便物認可

創刊101周年

第3種郵便物認可
2024年(令和6年)12月3日発行
第102巻第35号通巻482号
毎週月曜日発行(11月25日発売)

発行人 山本修司
編集長 岩崎 誠

発行所 毎日新聞出版
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館5階
編集 Tel:03-6255-6911 広告 Tel:03-6255-6731

定価850円(本体730円)®

EUROPE

ASIA & OCEANIA

JAPAN

UNITED STATES

The Gas Professionals

私たち日本酸素ホールディングスの使命は、
産業ガスのプロフェッショナルとして
世界の産業の発展と持続可能な
社会づくりに広く貢献すること。
その実現に向け、それぞれの地域で
お客様志向の事業を展開するとともに、
グローバル間で個々の強みを連携し
総合力を高めることで、
真に価値あるガスソリューションと
アプリケーションの提供に努めています。



日本酸素ホールディングス

大陽日酸 Matheson Nippon Gases アジア・オセアニア地域グループ各社 サーモス

日本酸素ホールディングス株式会社 <https://www.nipponsanso-hd.co.jp>

A MITSUBISHI CHEMICAL GROUP company

Printed in Japan
大日本印刷株式会社・印刷

雑誌 20031-12/3



4910200311249
00773

大阪・関西万博を問う⑨

ママがもてなすスナックツアー 町工場が開発「空飛ぶトラック」

日本独自の飲食文化や中小企業の町工場が取り組む新しい物流スタイルを紹介する。

木下 功
(ジャーナリスト)

大

企業だけではつまらない、会場だけではもったいない。スケジュールの遅れやコストの増加、輸送計画・安全対策の実効性など懸念事項の多い2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)。一方で中小企業や商店、大学生や脚本家などさまざまな人たちが独自の技術やアイデアを世界に発信する機会と捉えて万博参画への準備を進めている。

歩道にスナック

また、会場である大阪湾の人工島・夢洲の外に出て大阪の街を楽しんでもらうという取り組みも続く。今回は日本独自のスナック文化を発信しようという試みと、

町工場が飛行船で物流の新しい形をつくる挑戦を紹介する。大阪・関西万博開幕の半年前となる10月13日、大阪・梅田を中心に機運醸成イベントが開催された。

阪急大阪梅田駅周辺のさまざまな場所に「遊び場」をつくって楽しむ「HH EXPO」(阪急電鉄主催)、JR大阪駅南側歩道でワークショップやパフォーマンスを行う「EXPO OPEN STREET」(大阪梅田エリアマネジメント主催)、大阪駅周辺の魅力的なスポットで企画を展開する「EKI EXPO」(JR西日本ステーションシテイ、JR西日本大阪開発主催)で、親子連れやカップル、会社員らがさまざまなイベントを楽しんでいた。

一般社団法人「demo expo」(デモエキスポ)が提唱・推進する「まちごと万博」の一環で、夢洲だけでなく街全体が会場になることを目指し、挑戦意欲の高い人たちの活動を後押ししている。

「まちごと万博」の枠組みづくりに携わる大阪商工会議所の鳥井信吾会頭はイベントのテーマカットで、「万博は世界最大級の国際イベント。会場の中だけで盛り上がりつつ大阪の街がしんとしているのでは困る。世界の人に会場の外に集まってもらうように、街中がいつしよになってやらなくては」と強調する。

JR大阪駅南側の歩道空間で開かれたイベントでは、夕

やSNS(交流サイト)での発信に注力することで、「女性一人でも安心して飲めるように心がけている。初めての人も気軽に入ってもらえれば」と、万博や関連イベントを通して新たな顧客が生まれることを期待する。

ツアーガイドとともに実際に営業しているスナック2軒をはじめ「大阪スナックナイトツアー」も実施された。

仕掛け人は、「オンラインスナック横丁文化(東京都)」を経営する五十嵐真由子社長だ。10年間で850軒を超えるスナックを訪ね歩いたという「スナックマニア」で、スナックの店舗が激減していることを社会課題として捉えていた。同社では外国人や初心者に向けた「スナックツアー」やネット上でスナックとつながる「オンラインスナック」などの企画を展開。企業や自治体、教育機関とのコラボ事業も手掛け、スナック文化を発信している。

イベントやツアーは英語でも対応しており、国内外から大阪・関西万博を訪れる人たちに「スナックを通して大阪の街の魅力をもっと伝えたい」と意気込む。

大阪の町工場13社と技術者がタッグを組んで開発に取り組んでい

るのは、「可変浮力機能」を備えた新しい飛行船だ。浮力を調整することで物を持ち上げて運ぶ。完成すれば、道路が寸断された被災地に物資を届けたり、道のない高山の頂から材木を運んだりすることもできる。「空飛ぶトラック」として物流の新しい形を目指す。

小さな町工場の情熱

開発のキーとなるのは「可変浮

力装置」。飛行機やヘリコプター、ドローンが化石燃料や電気を用いたプロペラで本体を支えるのと異なり、飛行船は船体内の不燃性・軽量ガスの浮力で空に浮かぶ。軽量ガスと空気の容積を調節することで浮力をコントロールすれば、浮くだけではなく大容量の荷物を持ち上げることが可能だ。

「万博は大企業だけのものではない。小さな町工場でも、情熱があれば出展して活動を世界の人に見てもらえる」を合言葉に、日本飛行船学会の技術者メンバーとともに、社会の課題に対応するプロジェクト「Zipang飛行船」として開発に力を注いでおり、万博後も事業は継続する。

さまざまな業種の中小企業が連携し、万博に向けて新技術に伴う事業を迅速に進めることができる背景に、参加企業などが取り組む「Garage Minato」(ガレージミナト)の存在がある。

やみのビル群を背景に立つテントの下に「スナック体験ブース」が設けられた。大阪で働く4人のスナックのママたちが通行人を客として迎え、笑顔とトークでもてなしていた。「EXPO OPEN STREET」の企画の一つ「スナック横丁」だ。

参加者は紙芝居やクイズでスナック文化を学び、ママたちとの会話を楽しんでいた。もてなす側として参加した「スナックうみ」(大阪市北区)のママ、北川うみさんは時間制の分かりやすい料金体系



「スナック横丁」のイベントでコミュニケーションを楽しむスナックのママと参加者(10月13日、大阪市北区のJR大阪駅南側)

研究者やベンチャー企業と製造業者がアイデアをより早く具現化するためのプラットフォームだ。これまで大阪市港区役所と連携しての海底探査プロジェクトや同区の花保山公園を使った実証実験、飲食店とフードテックベンチャーとの連携促進・社会実装を実現している。

プロジェクトリーダーである成光精密(大阪市港区)の高満洋徳社長は「大阪の町工場にはアイデアを具現化する力があり、集まれば何でも作ることができるといことを、万博を通じて知ってもらいたい」と意気込む。

このプロジェクトは大阪府と大阪市が出展する大阪ヘルスケアパビリオンの一画で行う企画「リポインチャレンジ」の認定事業の一つで、企画・運営は大阪商工会議所と大阪産業局でつくる「中小・スタートアップ委員会」。両団体を含む公的機関や金融機関、大学など14の実施主体が26の事業を認定しており、441社の中小企業・スタートアップが出展する。

展示は1週間ごとに交代し、プロジェクトの展示は万博開催最終週の2025年10月7日から13日までの予定だ。

(次回は1月7日号掲載予定)



大阪府八尾市で8月に行われた子どもたちとの実証実験に使用された飛行船 成光精密提供